



NEWSLETTER FOR THE JAPANESE
ASSOCIATION FOR DENTAL RESEARCH
(JADR)

国際歯科研究学会日本部会 会 報

1985— II

5月

1985年第2回理事会

日 時：4月22日(月) 2:00 pm

場 所：東京医科歯科大学歯学部会議室

出席者：三浦会長、大橋副会長、須賀、小沢、吉田、木下、清水、亀山各理事、
常光事務局長

I. 第63回IADRラスベガス大会の理事会について

3月18日と19日の二日間、ラスベガス市のMGMグランドホテルで理事会が開催され、JADRより三浦会長、須賀前会長と常光事務局長が出席した。理事会の討議内容と1984年の会計決算書、1985年の予算案の詳細は後日発行される IADR Reports ならびに J. Dent. Res. に掲載される予定なので主な要点のみを記載するにとどめる。

- ① Ten Cate 現会長の任期満了に伴ない Paul Goldhaber 教授(ハーバード大学)が新会長に、副会長には Roy Page 教授(ワシントン大学)が決定した。
- ② 本年1月末締切で IADR の全会員に賛否を求められた Cl. Requirement for forming a Division (30名以上の会員をもつ Section の過去5年間の研究活動状況をみて Division

に昇格させる件) C2. Dissolution of Groups (研究グループの会員数が30名以下となった場合は理事会の議により、そのグループを解散させる件)

の2件は賛成多数であった旨の報告があり、従って IADR の会則が変更された。

- ③アイルランドとエジプトが Section より Division に昇格させることが正式に承認された。
- ④J. Dent. Res. へ原稿を提出してから印刷されるまでの期間は

原稿の reject	1.9±1.1 (標準偏差)	カ月
accept	5.2±3.0	カ月
publish	3.6±1.2	カ月

となっており、原稿を提出してから印刷されるまでの月数は平均して約10.7カ月かかっていることが、編集長の Dr. Dawes より報告された。

- ⑤1984年度の会計決算(収入\$14,5059,支出\$11,4518,繰越し\$3,0541)が承認され、更に1985年度予算案(1984年度とほぼ同額)が了承され、健全な財政運営となっている。
- ⑥International Relations Committee は Information Resources Committee と改名し、構成メンバーは各 Division より1名づつと Board of Directors より指名された chairman 1名からなり、従来1年であった chairman の任期は3年とすることが了承された。
- ⑦Science Information Transfer Committee は廃止する。
- ⑧副会長は今後2回 nominate できるように会則の一部を変更することが了解された。
- ⑨Oral Science Research Award を Young Investigator Award と改名し、年齢は36才までの若手の研究者を対象とすることになった。
- ⑩Treasurer (1985~1988) に Dr. Bowen が、Executive Director (1985~1990) に Dr. Gray が再指名された。
- ⑪Board of Directors の member at large に日本の 三浦不二夫教授(東京医科歯科大学)が就任されることが満場一致で決定した。
- ⑫ラスベガス大会では総数1,838題の研究発表があったが、日本の研究機関よりの発表が36題、日本人で海外の研究機関に留学し、その外国人と共同研究者としての発表が85題、日本と海外の研究機関との共同研究発表が15題であり、年ごとに日本人の発表数が増加していることは喜ばしいことである。なお本大会に約160名の日本人が参加した。

Ⅱ. 第33回JADR岐阜大会について

今年のJADR大会は吉田定宏学会準備委員長の下で11月29日(金)と30日(土)の両日、朝日大学歯学部(旧名:岐阜歯科大学)5号館で開催される。演題申込みの締切りは8月24日(土)で英文アブストラクトの提出期限は9月14日(土)までの予定である。

学会運営の詳細は後日、全会員に案内される筈である。

Ⅲ. JADR会費納入状況について

本年度会費(3,000円)の納入状況は5月1日現在で納入率62%であり、未納入者が多いので事務局は大変困っております。本学会が円滑に運営されますように会費納入にご協力下さい。近日中に未納入の先生方に催促状を発送する予定です。

Ⅳ. 事務局よりのお知らせ

最近IADRとJADRを混同されている若い先生方がおられますので、IADRとJADRの歴史と現状をこの機会に紹介させて頂くことにしました。

国際歯科研究学会 International Association for Dental Research (IADR) は1872年(明治5年)に W.J.Gies 博士によって創立され、以来100年以上の輝かしい歴史の基盤の上に立つ歯科医学の総合的国際学会であり、国際的に最も権威ある学会の一つであります。学会本部はアメリカのワシントン D.C. にあり、毎年アメリカで年次大会が開かれていますが、3年に1回はアメリカ以外の国で開催されています。ロンドン、コペンハーゲンに次いで1980年には大阪で、1983年にはシドニーで行われたことはまだ記憶に新しいところです。IADRの機関誌は Journal of Dental Research で年16回発行されており、会員には IADR Reports が年3~4回送られてきます。

IADR には、Behavioral Science, Cariology, Craniofacial Biology, Dental Materials, Experimental Pathology, Implantology, Microbiology/Immunology, Mineralized Tissue, Neuroscience, Oral & Maxillofacial Surgery, Periodontal Research, Pharmacology/Therapeutics/Toxicology, Prosthodontics Research, Pulp Biology, Salivary Research の15の研究グループがあり、IADRの会員になりますと最大3つまで、自分の専門グループに入

ることができます。IADR の会員数は現在約6,100名で最も多いのがアメリカで約3,300名と過半数を占めており、次いで日本、イギリスとなっております。IADR ではアメリカをはじめアルゼンチン、オーストラリアとニュージーランド、イギリス、カナダ、ヨーロッパ大陸、イラン、イスラエル、日本、韓国、メキシコ、スカンジナビア、南アフリカのほか、1985年に承認されたアイルランドとエジプトに IADR の各国部会が設けられており、少なくとも年1回それぞれの国で学会が行われています。

IADR 日本部会 Japanese Association for Dental Research (JADR) は1953年(昭和28年)に高橋 新次郎会長と榎 恵事務局長のご尽力により、Section として IADR 理事会で承認され、その後 Division を経て、現在 Association と呼ばれており、30数年の歴史をもっています。年1回学会が開催されており、発表された英文アブストラクトは Journal of Dental Research に掲載されています。JADR には機関誌はなく日本部会会報を年4回発行し全会員に配布しています。

JADR の会員数は現在約700名ですが、全員が IADR の会員になっておられませんし、また IADR の会員でありながら JADR の会員になっておられない先生方もおられます。日本部会創設より10年間ぐらゐの間は IADR 入会に対する資格審査選考はアメリカ本部で行われ、外国人に対しては人数制限もあって極めて厳しかった時期がありました。その後、IADR 自体のポリシーがより国際的に改善され、各国部会により大きな権限が与えられるように会則が変更され、入会手続きも簡単になっております。従って IADR と JADR の両方に基礎と臨床系を問わず、数多くの先生方が入会され、国際的にご活躍されることを念願しております。入会手續等につきましては学会事務局へご連絡して頂ければ幸いです。

(文責：事務局長 常光 旭)

THE JAPANESE ASSOCIATION FOR DENTAL RESEARCH

国際歯科研究学会日本部会事務局

〒565 大阪府吹田市山田丘1-8

大阪大学歯学部予防歯科学講座内

電話 (06) 876-5711 内線2281